

「船員教育について」
—海事社会の発展に向けた船員教育—
課題研究グループリーダー：羽原敬二

趣旨：

外航海運では日本人船員の減少，内航海運では船員の高齢化による労働力不足が依然課題となっている。日本人海技者（船員）の安定的な確保は，海事産業の根本的なテーマであるとともに，海事人材を輩出する教育機関の役割は，一層その重要性を増している。

そこで，このような状況に鑑みて，まずは，船員教育の課題を的確に認識し，将来に向けてどのように船員教育を効果的に実施していくかについて，調査・検討・考察した結果を取りまとめることが目的である。これによって，究極的には，日本がアジア太平洋地域における海事産業の発展に貢献する役割，政策，および戦略を明らかにすることを目指す。

具体的な研究対象の事例としては，以下のような問題が挙げられる。

- ・海技者教育機関における課題と将来に向けた展開，機能，組織体制
- ・船員の人材確保と質の向上，キャリアパス，海事社会のあり方
- ・デジタイゼーションへの対応と船員教育
- ・新たな海事人材教育プログラムのあり方，海洋開発人材の育成方法
- ・アジア太平洋地域における海技者教育への貢献と組織体制

協議方法：

- ・船員教育に関する海事行政と海事現場の課題の調査と分析
- ・将来に向けた対応を考察することに基づいた政策提言

活動予定：

- ・2020年9月開始，2021年3月に経過報告予定
- ・検討会を3回から4回開催予定

課題研究グループメンバー：

- ・船員教育機関従事者
- ・海運関連事業従事者（海運企業，船舶管理者，ドックマスター，ハーバーマスター，船舶管理監督者，水先人，港湾運航事業者，船員配乗業者など）
- ・海事・物流・交通関係研究者
- ・その他参加を希望する会員

参考文献：（順不同）

- ・赤塚宏一・井上欣三「キャリア船員の重要性とキャリア・パス・スキームに関する一考

- 察」『海事交通研究』2007年，第56集，51-71ページ
- ・「海事分野における人材確保・育成のための海事政策のあり方について」平成19年6月，交通政策審議会海事分科会ヒューマンインフラ部会
 - ・「わが国における海洋・海事教育の現状」『海と安全』No. 557（47巻，夏号），2013（平成25）年，公益財団法人日本海難防止協会
 - ・「未来の海技者を輩出する船員教育現場の声」『KAIUN』2018年7月号，41-65ページ
 - ・「「海王丸」から見る船員教育の実相」『KAIUN』2016年9月号，55-65ページ
 - ・「平成30年度海事調査委員会報告書 これからの海事人材（技術者）の育成についてー海技者を取り巻く環境変化とデジタル化への対応ー」『海洋』4月号，一般社団法人海洋会108-136ページ
 - ・「特集＜海事人材育成プロジェクト＞」『NAVIGATION』203号，平成30年1月号，9-44ページ
 - ・「特集 JASNAOEにおける海洋教育の現状とこれから」『KAIRIN』日本船舶工業会誌 第89号（令和2年3月），1-31ページ
 - ・「船員・海技者、役割の変化と進化」『海事プレス《シリーズ》海事クラスターの危機と活路』2020年5月11日，12日，13日
 - ・「第5章 次世代を担う海事人材の確保・育成」『海事レポート2019』国土交通省海事局
 - ・『平成29年度 海洋人材育成等プロジェクトチーム報告書』総合海洋政策本部参与会議 海洋人材の育成等PT
 - ・『海事産業における女性活躍推進の取組事例集～Vol. 3』国土交通省
 - ・「第3期海洋基本計画における政策課題についての考察」『全船協』会報139号，2019年1月新春号，一般社団法人全日本船舶職員協会，29-37ページ
 - ・『海洋会創立100周年記念特集号』2020年7月
 - ・「海事人材育成プロジェクト 新たな海事教育システム構築のための高専・商船学科教員研修事業 最終報告」平成29年2月
 - ・「船員養成の改革に関する検討会第1次中間とりまとめ」船員養成の改革に関する検討会，平成31年2月7日
 - ・引間俊雄「海事教育機関における人材育成の現状と課題ー船員不足と教官不足ー」Journal of the JIME, Vol. 52, No. 6（2017）
 - ・『わが国海運を支える海技のあり方と制度改革』海事研究協議会研究成果報告書，平成31年4月9日